

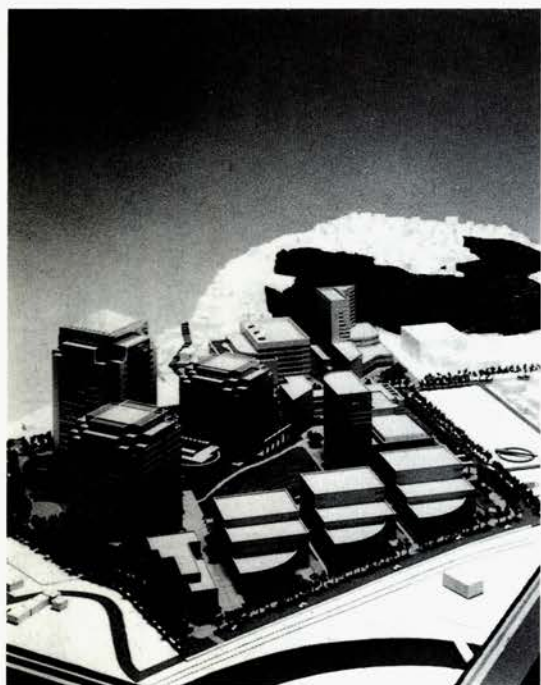
## 第1節 移り変わるまち

# 分散する都市拠点

多様な機能とさまざまな顔をもつ拠点が郊外部においても出現しようとしている

かつての横浜の拠点(中心)地区は、業務・商業は関内地区や横浜駅周辺地区、工業は京浜地区や根岸地区というように、臨海部に集中していた。

しかし、交通網の発達と沿線の人口増加、都心部の地価の高騰、新規開発・再開発の進展な



横浜ビジネスパーク(星川、天王町)完成予想図

### ■郊外部における最近の動き



どが契機となつて、郊外部にさまざまな拠点が形成され、また今も生まれつつある。

その一つ塚原の東戸塚は、新駅の設置と都市開発が一体となつたもので、商業・業務などの集積が、また港南台やたまプラーザでは、郊外型の商業集積が進んでいる。さらに、星川・

天王町では、工場跡地を再開発し、「横浜ビジネスパーク」を中心とする職・住近接型の拠点形成が進みつつある。

このほかにも郊外部では、交通の利便性や広い敷地を生かし、次つぎに業務・工業系や商業系の拠点が形成されつつある。

かつては、都心部——郊外部という単純な図式でとらえられがちだった郊外部も、多様な機能をもつ拠点がさまざまな場所で形成され、それぞれ特色のある地域として、独自性をもつようになっている。

横浜は、都心部といくつかの拠点が、それぞれさまざまな「顔」をもつ、多極構造型の都市として生まれ変わろうとしているのである。